

JFSTA NEWS

contents

新年挨拶.....	1	会務報告.....	8
特別寄稿.....	2	事務局便り	12
会員通信.....	4		

新年挨拶

会長 川口 恭一

新しい年を迎え、新春のお慶びを申し上げます。

関東地方の三が日は暖かい陽射しが降り注ぎ、今年の先行きを示すものであってほしいと念じたくなるような穏やかな日々でした。

最近、観測史上例がないという言葉が冠して報道される特異な気象の多発や英国のEU離脱、米国の大統領選等にみられたように、多くの人々にとって従来の知識や経験では推し測れない自然的・社会的な大きな変化が起るようになってきているように感じられます。

平成20年秋に中間法人として創設された全国水産技術者協会は、全国の水産に関する現場の技術的要請に的確に対応できるよう体制整備を進め、多くの水産現場の要請に対応してきました。現在、正会員94名、賛助会員32法人、総事業費規模6億円余と着実に発展してきています。しかし、会員不在の13府県が存在し、これをカバーできる体制整備が喫緊の課題となっています。

水産業界に提起される技術的諸課題について当協会の専門性を生かした研究会として「沿岸域の豊かな漁業生産の維持に関する研究会」を設置しました。その研究結果を踏まえて政・官・業界に向け緊急提言を行ったところですが、本年は、さらなる議論を深め報告書を取りまとめたいと考えています。

また、水産に関する技術的諸課題の解決を図るための試験研究を支援する「水産業技術センター事業」の一環として、全国水産試験場長会が行う試験研究成果表彰に協賛し、3課題に副賞を提供しました。引き続き、これら試験研究や技術開発普及活動に対し支援していく所存です。

さらに、本年秋をもって当協会は10年目に入ることから、適当な時期を選んで設立10周年記念事業を実施することとし、そのための準備委員会を設け記念事業の企画準備を進める計画です。

酉年である平成29年は大空を飛翔するがごとく全水技協の更なる発展の年となるよう事業運営に取り組んでまいります。

会員各位の積極的な協会活動への参加をお願いし、新年のご挨拶といたします。

平成28年度 全国水産試験場長会賞 受賞課題の紹介

アカモク種苗生産・養殖技術の開発
京都府農林水産技術センター海洋センター研究部
アカモク養殖技術開発グループ
主任研究員 道家章生

◇アカモクとは

ホンダワラと同じ褐藻類ホンダワラ科の海藻であり、秋田県で「ぎばさ」、新潟県で「ながも」、石川県で「じんばさ」などと呼ばれています。北海道の一部を除く国内に広く分布しており、京都府でも若狭湾西部海域（通称丹後海）を主体に分布が確認されています。

アカモクは他のホンダワラ科海藻が多年生であるのに対して、1年で10m程度に成長し、成熟したのち枯死、流出する一年生の海藻です(図1)。アカモクは成熟すると特有の粘りが出ますが、京都府沿岸に分布するアカモクには2～3月、4月、5月に成熟する3つのタイプがみられます。

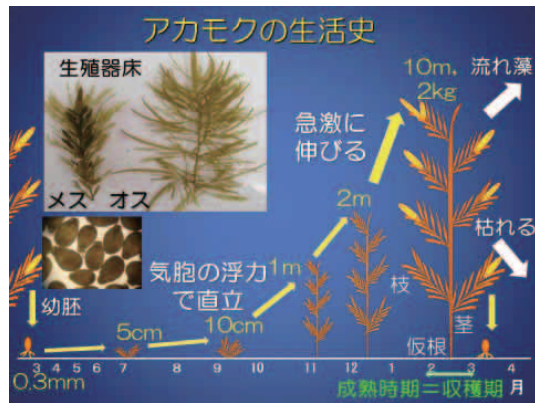


図1 アカモクの生活史

◇アカモクの食用利用

秋田県や新潟県、石川県などの一部では昔から食用とされてきましたが、近年は岩手県、宮城県、神奈川県、愛知県、三重県、島根県、鳥取県、福岡県でも食用化の取組が進められています。京都府では平成19年から食用化の取組が始まり、漁獲量は平成24年には8トンまで増加しましたが、平成25年には生育量が極端に少なくなったために禁漁となりました。その結果、それま

で利用していた実需者から安定供給、増産の要望があり、これまで当所が藻場造成等で培ってきた知見を応用して、アカモクの安定生産技術の開発に取り組みました。

◇アカモクの美味しさ、栄養

アカモクの特徴は「シャキシャキ感とトロミ」であり、トロミのものは「アルギン酸」や「フコイダン」といった海藻特有の食物繊維です。ミネラルも豊富に含まれており、特にカリウム、カルシウム、マグネシウム、鉄、亜鉛などは同じ褐藻類のワカメやオキナワモズクより多く含まれています。

◇アカモク種苗の生産技術

アカモクの種苗生産は、従来の技術では3月上旬にABS樹脂製の小片基質(図2:1cm×1.5cm×1cm)に採苗した種苗を5月中旬まで静置培養したのち、10月中旬まで立体攪拌培養をしていました(図3)。しかし、この場合、立体攪拌培養期間が5ヶ月間と長いことから、水槽の掃除や新しい水槽への交換など多大な労力とその間の資材や光熱水費のコストが高いなどの課題がありました。そこで、アカモクの幼胚は冷暗所で保存しても発芽能を有する(瀬戸内海区水産研究所吉田グループ長の論文より)という休眠特性を利用し、採苗から4ヶ月の期間を冷暗所で冷蔵保存することを考えました。この手法を用いることにより、静置培養は約2ヶ月から1ヶ月に、立体攪拌培養は5ヶ月から約2ヶ月に短縮(図3)でき、この技術と小片基質の経費削減(射出成型による作製)と合わせて、種苗の単価は従来の32円から15円まで下げることが可能となりました。このようにして生産された種苗(図4)を用いて10月から養殖を開始した結果、従来の技術で生産した種苗と成長、生残で差は見られませんでした。

なお、これらの技術については、「褐藻類幼体の剥離攪拌法による培養養成法(特許第3769535号)」、「海藻種苗の生産方法(特許第4711807号)」として登録済みです。

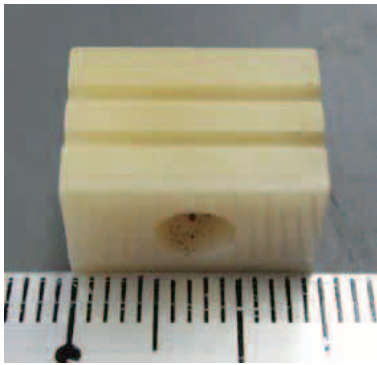


図2 小片基質

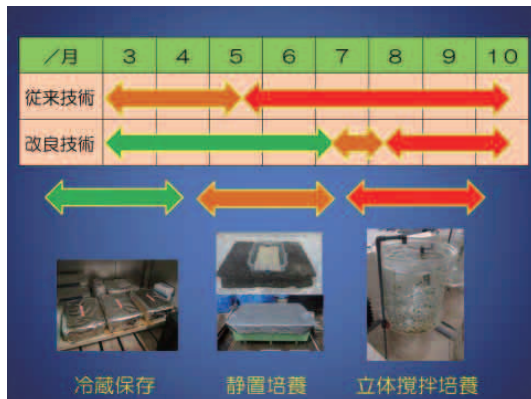


図3 労力削減のための種苗生産技術



図4 生産された種苗

◇大規模養殖施設を用いた養殖技術

養殖を開始する10月の1ヶ月前までを目途に、50mの種苗ロープを張り込める中層延縄方式の養殖施設(図5)を設置します。種苗は養殖ロープ1mあたり5個(20cm間隔)を小片基質の穴を利用して結束バンドで種苗ロープに固定し、水深1mに張り込みます。その後、種苗が伸張した12月を目途に種苗ロープを水深3mまで下げます。これは、最初から水深3mにしておくと、浮泥が堆積して成長が阻害されたり、成長後に付着部から流出する個体が多かったためです。施設設置からの作業は以上で終了となり、後は収穫するだけです。2月初旬には種苗は10m程度まで成長(図6)し、養殖施設1基あたりの収穫量は約600kg(生産量750kg×0.8:藻体の下部は

付着物等で食用に不適なため)で、一人でも90分程度で収穫できます(図7)。収穫後は、種苗ロープを回収し、施設の主要な部分を海底に沈設することにより、養殖期間以外に海面を占有することはありません。

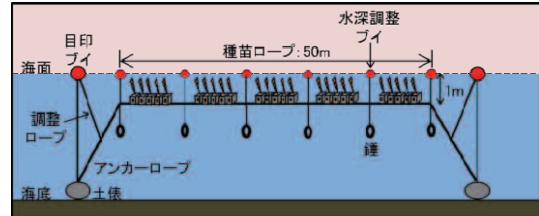


図5 中層延縄方式の養殖施設

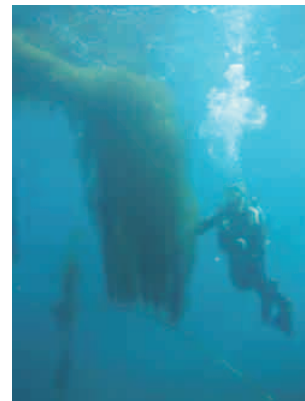


図6 成長したアカモク



図7 アカモクの収穫

◇今後の展開

今後アカモク養殖の生産を増大させるためには、府内各地に養殖産地を広げていく必要があります。また、アカモク養殖に興味を持っていただき、是非やってみたいという漁業者を育成する必要があります。そのために、現在、若手の漁業者を対象としてタスクチーム活動(研究活動を迅速に現場に普及するために普及員とともに伴走指導する京都府独自の取組)に取り組んでいます。今回開発した技術をまとめると、①天然資源に左右されない安定生産が可能②収穫まで施設設置、種苗の沖出し、水深調整と作業量が少ないため兼業が可能③天候が厳しく出漁

機会の少ない冬季の貴重な収入源④天然と異なり他の海藻が混じることがないため選別の手間が省けるという4点に集約されます。

最後に、今回の一連の作業は当所が発行して

いる「季報」という冊子にまとめて漁業者に周知をはかっているところであり、数年後にはアカモクなら京都産と言われるまで規模を拡大できればと考えています。

会員通信

魚見桜の蘊蓄

上城義信

⑩ もいか賛歌

アオリイカ(標準和名、外套を広げた姿が団扇に似ていることに由来する。)は、身が透明のため「みずいか」あるいは、春には藻(アマモ)に卵を産みつけるため「もいか」とも呼ばれる。

仰いで風を送るという意味らしい。主として南日本に分布。大分県内では、臼杵・津久見湾が主産地だが近年は別府湾にも多く来遊する。国東半島の国見が北限で、主に定置網で漁獲される。イカ類中では最も美味とされ、そのさわやかな歯触りと奥深い味覚が人気のもと。釣りファンも多い。

10月29日(土曜)、前日は初時雨で海が荒れ、市場はやや魚が少ない。この日、セリ場の小間には56種の魚介類が並んだ。内訳をみると魚類41種で、甲殻類8種、そして軟体類が7種で魚類が圧倒的に多い。これは前の9月に比べ13種も多い。



アオリイカの裏と表



7時30分 競りが始まる



仲買店には客がいっぱい

一方、出荷函数は377函で、先月に比べて65函少なく、イカ類などの軟体類は増えたものの、イボダイの落ち込みが大きい。

今月のランキング(2016年10月29日調査のベスト10)を見てみると、魚類5種、甲殻類3種、そして軟体類が2種で、魚類が半数を占めた。

種別では、第1位にマアジ、第2位に先月1位のイボダイが後退、第3位にエソと上位3傑には魚類が収まった。第4位には今年生まれのコウイカ、第5位に中型エビのヨシエビが大健闘。近年、第7位のクマエビとともに水揚げが好調だ。第8位にこの季節常連のサルエビが入った。夏場に多かったマダコが第6位となり健闘が光る。高価格魚では、マダイとサワラもベスト10入りを果たし、仲買や一般買い物客の注目を集めた。



漁港の夜明け



もいかを上げる定置網船

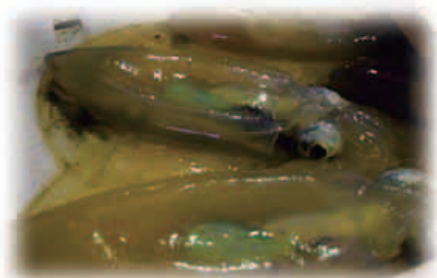
そして今月、注目のアオリイカも次点に入り、来月以降の豊漁に期待が大きい。

これから秋が深まり、コウイカ、シリヤケイカのシーズン到来となる。朝市は、午前7時30分から始まる。夜明けが遅くなって、寒さも一段と厳しくなるが、ちょっと早起きして、お目当ての魚を手に入れるのも楽しい。

もいか来て かぼすと柚子で 秋旨し

秋が旬の魚たち

(撮影:松澤京子)



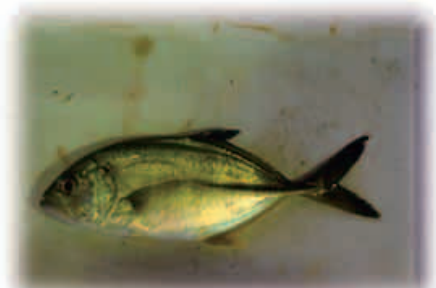
アオリイカ やはりお造りが美味しい



秋鱈 嫁に食わして味噌漬けに



コウイカ 中華料理に重宝



ヒラアジ 塩焼きはカボス果汁



ヒラスズキ 魚のステーキで



メジナ 塩焼きで抜群、意外と刺身もいける



ワニエソ エソの仲間。
小骨が多いが身は美味しい。すり身にする。



我が家のエソ料理 照り焼き・吸い物・骨の空揚げ

⑪ 一冬至ぶり 活況一

平成28年12月24日(土)、朝6時30分、天空には下弦の月が輝き、港の奥からは太陽が顔をのぞき始めた。朝漁から戻った船では漁夫が生簀から魚を取り出し、セリ場では、漁協の職員が、船から運ばれてきた漁獲物を種分けして、種類ごとに発砲スチロールのトロ箱へ詰めて小間に並べている。このところ天気が時化続きで漁を休む船が多く、出荷量は少ない。



朝漁から戻った船

セリ場では、12月15日解禁のナマコ漁のナマコと、このところ好況の天然ブリが大挙して揚

り、仲買人や一般買出し客の熱い視線を浴びている。とりわけ正月を前にした天然ブリは重さ5.6kgが主力。この時期、冬至ブリとも呼ばれ、脂がのって旨いと評判がいい。養殖ものと比べると、身が硬く、歯応えがあり、適度の旨さで好評だ。値段は大きさによりまちまちで、一尾2,400円から4,500円と幅広い。

午前7時30分にセリが始まる。せり人は上野裕介さん(漁協職員)。この道10年のベテランだ。この日のせり場では、魚類32種、軟体類4種、その他が2種の合計38種。盛漁期に比べると50%程だろう。函数は、魚類が102函、軟体類が24函、その他が18函で、計144函。

中旬から解禁されたナマコが17函と気を吐いた。仲買に落札された冬至ぶり。価格は、一尾当たり3,000円ほど。

今月のランキング(2016年12月26日調査のベスト10)第1位のブリは定置網、2位のナマコはナマコ漕ぎと竿漁、タコは籠漁で漁獲されたもの。ベスト10入りは、魚類が7種、軟体類が2種そしてその他が1種で、魚類の数が多い。



落札された冬至ぶり

ベスト10入りした魚類の内では、第9位に入ったカゴカキダイの健闘が光る。魚屋さんの店頭ではあまり見ることがないが、この時期、脂が乗って美味しい。黄色っぽい地肌に5条の黒い縦じまが特徴。小さな鱗を落として胸鰭の下から包丁を入れて頭を落とし、内臓を取り出して塩焼きにする。脂が乗っていて実に美味しい。かぼす汁を落とすとさらに旨さが増す。



小間に並んだカゴカキダイ

そして冬はフグが旬となる。昭和60年代、別府湾ではトラフグ漁が盛んに行われ、白杵・津久見湾から国東半島姫島が漁場となってふぐ延縄漁が行われた。筆者も別府湾での試験操業をした記憶が鮮明に蘇る。夜の別府湾から眺めた市街地の夜景は素晴らしかった。

近年は、養殖フグが主流となって、天然ものは珍しくなった。今朝は、3種のフグが揚がったので紹介しよう。

朝市に揚がったふぐの仲間たち

(撮影:松澤京子)



クロサバフグ(サバフグともいう)
方言で「かなとふぐ」

本近海産サバフグは古来無毒とされていたが、筋肉・皮以外の内臓・肝臓は禁止された。背面と腹面に小棘が散在する。



ヒガンフグ(通称なごやふぐ)

黒味がかかった茶色の円い斑点がある。小棘はない。精巢は弱毒。皮・腸・肝に毒を持つ。



コモンフグ

背中に白色斑紋。卵巣・肝臓に猛毒あるが、肉は弱毒。

ふぐ毒はテトロドトキシン(構造式: $C_{11}H_{17}N_3O_8$)で、青酸カリの十倍の毒力を持っている。熱に強く水に溶ける。ただ、ふぐ毒は季節により強弱が変化するので素人料理は危険が伴う。「ふぐ料理免許証」を持った料理人が料理したものを食べれば間違いない。もう一つの特徴は、大半の魚には鱗がないが、フグ類に限り眼を閉じることができるのです。海に潜って観察してみましょう。

冒頭で、「冬至ぶり」を紹介したが、もう少し詳しく紹介しよう。ブリはカンパチ、ヒラマサなど近縁の仲間とともにアジ科に属する回遊魚だが、アジのようなぜんご(栴鱗)はない。寒の内が一番うまいとされているが、魚屋の店頭では春先の新緑の頃まで見られる。ブリと言えば刺身が旨いし、照り焼きが旨い。あら煮にしているし、ぶり大根もいい。毎年、我が家では年末・年始には里帰りの子供家族には欠かせない料理である。



朝市を席捲する天然ぶりの山

**カゴカキは
見栄えも良いし
味も良い**

国立研究開発法人水産研究・教育機構との懇談会

日時 平成28年12月8日(木) 15:00～17:30

場所 みなとみらいクイーンズタワー B7階G
会議室

テーマ 漁場環境や漁場生産力の維持・回復
について

- (1)沿岸域の豊かな漁業生産の維持
について(栄養塩供給の視点から)
- (2)漁場の水質(漁場環境)管理を巡
る課題

出席者(順不同・敬称略)

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

和田時夫理事、與世田兼三審議役、檜山義明
研究推進部長、桑原久実・村上恵祐研究開発
コーディネーター

賛助会委員

井貫晴介((一社)法人マリノフォーラム21)、
為石日出生((一社)漁業情報サービスセン
ター)、小島伸一・平井光行(いであ(株))、
高柳和史(三洋テクノマリン(株))、小山利郎
((株)日本海洋生物研究所)、中根 徹((株)
サイエンスアンドテクノロジー)、若尾芳治
((株)片山化学工業研究所)、山本正昭((株)
センク21)代表取締役社長

当協会

原 武史、井上 潔、本西 晃、松里壽彦、新井義
昭、北川高司、前田隼平、福田雅明、三戸秀敏、
大寫 巖、井上慎吾

概 要

はじめに当協会井上専務理事からの挨拶の
後、井上慎吾シニア技術専門員より、沿岸域の
豊かな漁業生産の維持に係る委員会で検討を
重ねてきた、豊かな海を実現するための栄養塩
供給に関する対策や課題等の紹介を行った。
これに続いて、国立研究開発法人水産研究・教
育機構和田理事より、漁場の水質(漁場環境)
管理を巡る課題についての話題提供を受けた

後、特に栄養塩の供給・適正管理や生産の場と
なる干潟・藻場の確保等の「豊かな海」を実現
させるための課題や漁場環境についての討論
を行った。

主な質疑等

1)沿岸域の豊かな漁業生産の維持(栄養塩
供給の視点から)に関して

Q:河川管理の面から栄養塩の供給の管理は
どのようにするのか。

A:ここでは主にダム管理を想定している。

Q:ノリ養殖と漁業生物を区分けして栄養塩
の供給をみないとポイントが分からなくな
ると思う。ノリ養殖の場合は高い濃度の
栄養塩が求められる。

A:ノリ養殖と漁船漁業などを区分けして検
討することが必要と考えている。

2)アサリ漁獲量の増減に関して、

Q:アサリの漁獲量の減少は、海域の栄養塩
だけでなく他の要因も影響を及ぼしてい
ることから、栄養塩だけを解決してもア
サリの漁獲量の回復にならないのではな
いか。

A:アサリの減少要因を解明することではな
く、ここでは、アサリの「生産の場」を確保
することを目的に検討している。

Q:愛知県の干潟面積の推移とアサリ漁獲量
との関係はみられるか。

A:全国的にアサリの漁獲量は減少傾向にあ
る中で、愛知県は漁場造成によってアサリ
漁獲量が維持されてきたと考えられる。

コメント(C):貝類の場合、幼生は浮遊期を
経て沿岸に着底するので、浮遊幼生を加え
た検討が必要である。

Q:豊かな海を実現する項の中で「食物連鎖

の各栄養段階の生物現存量が十分に大きな海」とは何か。

A:本来ならば、特定の湾を対象にして、生物現存量を定量化していくべきであり、今後は、特定の湾を決めて検討を進めることを考えている。

3) 総合討論

Q:対象とする海域について、①沿岸域の豊かな漁業生産の維持について、どの海域を対象に検討しているのか。また、②ノリ養殖などを通じて比較的データが整っている海域は、地域的にみると西日本に偏っている。東北や北海道においても検討すべきではないか。

A:閉鎖性の高い内湾で、かつデータが揃っている3大湾（東京、伊勢・三河、瀬戸内海（大阪湾）を中心に検討を行っていくが、啓蒙普及の波及効果として、このような活動が全国に広まることを期待している。

C:漁業生産の維持、発展のためには、流れ場にも注目して、沿岸域と外洋も含めて検討すべきである。例えば、イセエビの幼生等は広域を漂流して沿岸に着底する過程があり、幼生が着底出来なければ加入したことになる。

C:栄養塩を「生産の場」からみると、ノリ養殖には好適な条件となる一方で、漁船漁業にとっては、夏季の貧酸素水塊の拡大に繋がる問題となる。

C:栄養塩は本当に低いレベルになっているのかについて納得できるような指標も必要である。水質では、COD値だけでなく、漁業を反映した新たな基準が必要と考えられる。

C:魚介類に対する安全基準となる知見が少ない。例えば、底質の水銀、ダイオキシンでさえも魚介類に対する閾値のデータがほとんどないのが現状である。

C:漁場環境の検討には、内湾への外海水の流入、海水の交換率、栄養塩の供給の条件に加えて、底質の環境も重要なファク

ターになると考えられる。干潟造成しても貧酸素水塊が拡大すれば「生産の場」の確保は困難となる。

C:最新の底質のデータが少ない状況である。

Q:内湾と外海では底質も異なるのか。

A:流れが速い外海では、底質は粗い砂礫が多くなり、流れが遅くなればシルトが堆積する傾向がみられる。

Q:漁場の水質管理手順（PDCAサイクル「状況把握・計画立案・実施・モニタリング」）においては、漁業生物（ノリ、アサリ、魚類等）ごとに栄養塩供給の目標を定めていくことが必要ではないか。

A:ノリ以外では栄養塩の必要量の知見が不足している現状にある。

C:内湾ごとの特性に合わせたきめの細かい検討が必要である。例えば、有明海のノリ養殖では、支柱柵が主流で浮き流し養殖（ベタ流し）は行っていない。現地の漁業者による漁場配置は、内湾の環境を守る観点からも以外とよく出来ていると感じている。漁場の有効利用に関連して、外国の複合養殖管理などの事例でも持続的な生産を目指しているケースがあるので、参考になるのではないか。

C:過去の魚介類の漁獲量と栄養塩との関係についての知見が、有明や瀬戸内海など一部にあるので、活用することも可能である。

C:漁業生産の向上に寄与するためには、栄養塩の質を考慮に入れた排出に係る研究が必要と考える。

C:水質データに関して、水産研究・教育機構を含めて全国の沿岸には多くの自動観測ブイが設置され観測を続けている。これらの水質データは貴重な財産である。一方、底質に関して、多くのデータは海域の開発に伴って調査されており、そのデータは公開されていない。

C:浜を元気にするためにもこのような検討を継続的に行っていく必要がある。

総括（理事長）：水産業は食料自給率向上の面から、広く国民からの支持を得ることが

必要と考えており、海の生産力を活かすことと自給率向上は直結している。しかし、その基礎となる水産研究の予算も削減されているのが現状である。海がなくなるとどうなるのかという観点から、国民的な運動を起こしていくべきと思う。また、例えば、有明海では漁業生産のおよそ8割がノリ養殖で占められている一方で、貝類、甲殻類が減少して、かつての東京湾の様に生物の多様性に乏しい偏った海になりつつあり、漁場の適正な管理が求められている。将来的な課題として、内湾の環境や漁業に関

するデータの蓄積・管理とその活用、水産研究の振興などが挙げられる。当協会では、沿岸域の豊かな漁業生産の維持についての検討を進めており、来年3月にその成果をまとめる予定である。これを機に漁業生産を守る立場からの栄養塩管理に関しての提言が全国の内湾へと広がっていくことを期待している。

今回の懇談会は平成29年2月に開催予定である。

(文責:北川)

第5回 沿岸域の豊かな漁業生産の維持に関する研究推進委員会の概要

日 時 平成28年7月1日(金) 13:30 ~ 17:00

場 所 当協会会議室(三会堂ビル8階)

出席者(敬称略)

委員長:松田 治

委 員:鈴木輝明、反田 實、中田喜三郎、山口徹夫、山田 久

協 会:川口恭一、原 武史、井上 潔、新井義昭、井上慎吾、池田宗平、三戸秀敏、福田雅明、北川高司、前田隼平、仲田希望

概 要

1. 「沿岸域の豊かな漁業生産の維持に関する緊急提言」の発信(平成27年12月14日)を受けて、当該研究推進委員会報告の取りまとめについて議論を行った。

1)委員会報告(案)の取りまとめの考え方について

事務局から「沿岸域の豊かな漁業生産の維持に関する緊急提言」を骨子として必要な加筆・修正を行い、委員会報告(案)としてまとめた旨を説明した。

2)委員会の主な指摘事項

- 本委員会としての報告書であることの位置づけを明記すること。
- 下水の高度処理については、現在以上の処理は不要である旨を指摘すること。
- 高度処理の目的と実態を根拠に栄養塩が大きく低下していることを記述すること。
- 類型別の環境基準の利用目的等を整理し直し、類型区分の見直しや環境基準としてCODは現在では見直すべきである旨を指摘すること。
- 環境配慮型港湾構造物に関して加筆すること。
- 水質環境基準について、水産の立場から上限値と下限値で範囲を示すことはできないか。
- 浚渫、埋め立ておよび深堀解消などの土砂管理の必要性を加筆すること。

2. 今後の予定

- 委員会の指摘を踏まえ再整理の上、改めて委員会において議論することとした。

(文責:三戸)

第6回 沿岸域の豊かな漁業生産の維持に関する研究推進委員会の概要

日 時 平成28年12月7日(水) 10:30～16:30

場 所 当協会会議室(三会堂ビル8階)

出席者(敬称略)

委員長:松田 治

委 員:鈴木輝明、反田 實、中田喜三郎、山口徹夫、山田 久

協 会:原 武史、井上 潔、井上慎吾、池田宗平、三戸秀敏、福田雅明、前田隼平

概 要

1. 第5回委員会における指摘を踏まえて加筆・修正した「沿岸域の豊かな漁業生産の維持に関する研究推進委員会報告(案)」について議論を行った。

1) 委員会の主な指摘事項

- ノリ養殖との関連に偏らないこと。
- カキ、アサリ、魚類の漁業・養殖との関連に関する見解を追加すること。
- 水質環境基準と基準値設定の正確な理解と水産生物としての必要性を主張すること。
- 海域の類型指定見直しの必要性を主張すること。

2. 今後について

- 委員会報告(案)を再整理し、委員の意見を求める。
- 必要な場合には委員会を開催し、当協会の平成29年度通常総会(6月)に報告できるように纏めたい。

(文責:三戸)

サクラマス飼育環境管理設計概要作成業務(新規)

目 的

富山県射水市の射水サクラマス市場化推進協議会が取組むサクラマス養殖「完全養殖サクラマスによるローカルブランディング創出事業(平成28年度～30年度)」(地方創成推進交付金対象事業)について、養殖環境を把握し、問題及び課題を整理し、適正な飼育環境管理方法等を提示し、今後の事業の展開に資することを目的とする。

内 容

射水市および射水サクラマス市場化推進協議会と打ち合わせのうえ以下の調査(予定)を実施し、今後の事業の展開に資する提言を取りまとめる。平成28年度から3ヵ年の予定である。

3カ年間の予定概要

平成28年度:飼育施設・資材、飼育管理等の現状把握及び問題、課題等の調査・整理
平成29年度:現状の問題・課題を踏まえた必

要な改善・改修等の技術的助言の整理および課題に対応した現地指導

平成30年度:将来的に安定生産を図るうえでの飼育管理マニュアルの作成

実施体制

富山県農林水産総合技術センター水産研究所等の協力を得て調査・取り纏めを実施するが、必要に応じて当協会の宮崎統五会員(富山市在住)がシニア技術専門員として現地における資料、情報の収集・調査を行う体制で実施する。

第1回 現地調査・打合せ

日 時:平成28年12月5日(月)、6日(火)

場 所:富山県農林水産総合技術センター水産研究所、堀岡養殖漁業協同組合、大門漁業協同組合

調査者:原理事長、本西理事、宮崎シニア技術専門員、三戸シニア技術専門員

概要

1. 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

1) 当該業務受託に至る射水市および射水サクラマス市場推進協議会との協議概要、協会の基本的な考え方(飼育管理等に関する技術的助言を行うこととする。)等を説明し、調査・資料収集に関わる協力を依頼した。

2) 水産研究所から2年成熟サクラマスの来歴、海洋深層水利用等に関する近畿大学、堀岡養殖漁協、入善漁協および入善町との経緯等の情報を得た。

2. 堀岡養殖漁業協同組合

1) 組合および射水市から近畿大学との関係、海洋深層水揚水・飼育環境の現

状、サクラマスの来歴等について説明を受けた。

2) 理事長から当該業務における本年度(飼育施設・設備、飼育技術の把握)および次年度以降の調査予定(生産・販売計画、飼育管理体制等の把握、適正な飼育管理のあり方等)を説明した。

3) 飼育施設・設備、飼育用水の問題、稚魚飼育(大門漁業協同組合)との連携、生産予定等について意見交換を行い、給餌法等の視察を行った。

3. 大門漁業協同組合

1) 組合から採卵・孵化および仔稚魚の飼育管理の現状等について説明を受けた。

(文責:三戸)

事務局便り

新年おめでとうございます。今年もご支援・ご協力の程、宜しく願いいたします。

今回は、水産技術センター事業の一環として副賞を提供した、平成27年度全国水産試験場長会賞受賞者の京都府農林水産技術センター海洋センター主任研究員の道家章生氏に寄稿いただきました。

今回お知らせしたサクラマス飼育環境管理設計概要作成業務(富山県射水市から受託)は、地域の水産業の問題を専門的立場から解決し、水産業の発展につながるという意味で、事務局としては当協会に適した調査課題と考えています。会員各位におかれましては、地域が抱える水産業の諸問題を発掘し、協会の業務拡大につなげる努力を各地で展開していただければと願っています。また、会員及び賛助会員各位の近況や活動状況をはじめ、会社紹介等も掲載していくこととしています。皆様の積極的な投稿を宜しくお願いします。以前からお願いしております水産顕彰碑に纏わる皆様からの寄稿もお待ちしております。

一般社団法人 全国水産技術者協会

〒107-0052 東京都港区赤坂一丁目9番13号 三会堂ビル9F TEL 03-6459-1911 FAX 03-6459-1912
E-mail zensuigikyo@jfsta.or.jp URL <http://www.jfsta.or.jp>